

けあほむ  
ケアホーム ひだまり  
していきょうどうせいかつえんじょじぎょう  
指定共同生活援助事業

うんえいきてい  
運営規程

しゃかいふくしほうじんわかたけだいじゅかい  
社会福祉法人若竹大寿会  
けあほむ  
ケアホーム ひだまり  
きょうどうせいかつえんじょ  
共同生活援助  
じぎょうしょばんごう だい  
(事業所番号 第1420200642)

していきょうどうせいかつえんじょじぎょう かいご きーび すほうかつがた うんえいきてい  
指定共同生活援助事業（介護サービス包括型）運営規程  
けあほーむ ひだまり  
【ケアホーム ひだまり】

じぎょう もくてき  
(事業の目的)

だい1じょう しゃかいふくしほうじん わかたけだいじゅかい せつちけいえい けあほーむ いか じぎょうしよ  
第1条 社会福祉法人 若竹大寿会の設置経営するケアホーム ひだまり(以下「事業所」とい  
う。)が行う障がい者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(以下「法  
という)に基づく指定共同生活援助事業(以下「事業」という。)は、生活介護や就労  
けいぞくしえんとう にちちゅうかつどう りよう ちいま せいかつ のぞ ちてきしやう しゃ からだしやう しゃ たい  
継続支援等の日中活動を地域での生活を望む知的障がい者、身体障がい者に対し、  
にちじょうせいかつ てきせつ かいご しえんとう おこな ちてきしやう しゃ からだしやう しゃ  
日常生活における適切な介護、支援等を行うことにより、知的障がい者、身体障がい者  
(以下「利用者」という。)の自立生活を助長することを目的とする。

うんえい ほうしん  
(運営の方針)

だい2じょう じぎょうしよ じゅうぎやうしや りようしや ちいき きやうどう じりつ にちじょうせいかつまた しゃかいせいかつ  
第2条 事業所の従業者は、利用者が地域において共同して自立した日常生活又は社会生活  
を営むことができるよう、当該利用者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境  
におう にゆうよく はい また しよくじとう かいご そうだん た にちじょうせいかつしやう えんじょ きやうどうせいかつ  
に応じて入浴、排せつ又は食事等の介護、相談その他の日常生活上の援助を共同生活  
じゅうきよ さてらいとがたじゅうきよ ふく てきせつ おこな  
住居(サテライト型住居を含む。)において、適切に行うものとする。  
2 事業の実施にあたっては、利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立った  
サービス提供に努めるものとする。  
3 事業の実施にあたっては、関係市町村、他の指定障害福祉サービス事業者その他の保健  
いりやうきーび すおよ ふくしきーび す ていきやう もの みつせつ れんけい ほか そうごうてき きーび す  
医療サービス及び福祉サービスを提供する者との密接な連携を図り、総合的なサービスの  
ていきやう つと  
提供に努めるものとする。  
4 事業の実施にあたっては、前3項のほか、関係法令等を遵守する。

じぎょうしよ めいしやうなど  
(事業所の名称等)

だい3じょう じぎょう おこな じぎょうしよ めいしやうおよ しよざいち つぎ  
第3条 事業を行う事業所の名称及び所在地は次のとおりとする。  
めい しやう けあほーむ ひだまり  
名 称 ケアホーム ひだまり  
しよざいち よこはましかながわくかんだいじ4ちやうめ  
所在地 横浜市神奈川区神大寺4丁目10-31

じゅうぎやうしや しよくしゆ いんすうおよ しよくむ ないやう  
(従業者の職種、員数及び職務の内容)

だい4じょう じぎょうしよ きんむ じゅうぎやうしや しよくしゆ いんすうおよ しよくむないやう つぎ  
第4条 事業所に勤務する従業者の職種、員数及び職務内容は、次のとおりとする。

1 管理者1名(常勤職員)

かんりしや じぎょうしよ じゅうぎやうしやおよ ぎやうむ かんり いちげんてき おこな じゅうぎやうしや うんえい  
管理者は、事業所の従業者及び業務の管理を一元的に行うとともに、従業者に運営  
かん きじゆん じゆんしゆ ひつやう しきめいれい おこな  
に関する基準を遵守させるため必要な指揮命令を行うものとする。

2 サービス管理責任者1名(常勤職員)

サービス管理責任者は、共同生活援助計画の作成の業務のほか、事業所に対する指定共同生活援助の利用の申込みに係る調整、従業者に対する技術指導等のサービスの内容の管理等を行うものとする。

3 世話人3名（常勤職員2名、非常勤職員1名）

食事の提供、健康管理・金銭管理の援助等日常生活に必要な援助を行うものとする。

また、利用者について、指定生活介護事業所、指定就労継続支援（B型）事業所等との連携及び調整並びに余暇活動について、利用者が自立した社会生活を営むことができるよう必要な支援を行うものとする。

4 生活支援員3名（非常勤職員3名）

入浴、排せつ、食事等の介護を行うものとする。

（入居定員）

第5条 当事業所における入居定員は、6名とし、女性限定とする。

2 前項の定員及びユニットの入居定員並びに居室の定員を遵守する。

ただし、災害、虐待その他のやむを得ない事情がある場合には、定員を超えて利用者を受け入れることができるものとする。

（指定共同生活援助の内容）

第6条 指定共同生活援助の内容は次のとおりとする。

- ① 入浴、排せつ及び食事の介護
- ② 相談
- ③ 食事の提供
- ④ 健康管理・金銭管理の援助
- ⑤ 余暇活動の支援
- ⑥ 財産管理
- ⑦ 急病等緊急時の対応
- ⑧ 日常生活を営む上で必要な行政機関に対する手続き等の代行

（利用者から受領する費用の額及びその他の費用の額）

第7条 指定共同生活援助を提供した場合の利用料の額は、厚生労働大臣が定める基準額によるものとし、当該指定共同生活援助が法定代理受領サービスであるときは、その1割の額とする。ただし、市町村が定める月額負担上限額の範囲内とする。

2 前項の支払いを受ける額のほか、つぎの各号に掲げる費用の額の支払いを利用者から受けることができる。

- ① 家賃1ヶ月：33,840円（課税世帯の方）

23,840円 (非課税世帯の方)

② 食材料費：25,000円 (実費精算)

③ 光熱水費：15,000円 (実費精算)

④ 日用品費：5,000円 (実費精算)

⑤ 前各号に掲げるもののほか、指定共同生活援助において提供される便宜のうち、日常生活において通常必要となるものに係る費用であって、その利用者に負担させることが適当と認められる費用

3 前2項の諸費用の支払いを受けた場合は、領収証を交付するものとする。

4 前2項の諸費用の額に係るサービスの提供に当たっては、利用者又はその家族に対して事前にサービス内容及び費用について文書で説明を行い、支払に同意する旨の文書に署名(記名押印)を受けることとする。

### (入居に当たっての留意事項)

第8条 利用者が指定共同生活援助の提供を受ける際は、次の各号に掲げる事項に留意してもらおうよう説明を行うものとする。

- 健康維持のため、その日の内に就寝しましょう。
- 2週に1度、居室のクリーンデイを設定します。各自部屋の掃除をしましょう。必要があれば世話人がお手伝いします。
- お酒は飲み過ぎないようにして下さい。その他、暴力行為や他の人の迷惑になる行動はしないで下さい。
- 健康で和やかに過ごせるよう、お互いにルールを守りましょう。

### (緊急時等における対応方法)

第9条 利用者について、病状の急変が生じた場合、その他緊急事態が生じた場合は、速やかに医療機関、家族への連絡を行う等の必要な措置を講ずるとともに、管理者に報告するものとする。

### (非常災害対策)

第10条 指定共同生活援助の提供中に天災及びその他の災害が発生した場合、従業者は利用者の避難等適切な措置を講ずる。また、防火管理者は、非常災害に関する具体的な計画を立て、従業者に周知徹底を図るとともに、避難経路及び協力機関等との連携方法を確認し、災害時には、避難等の指揮をとる。また、非常災害に備えるため、避難、救出その他必要な訓練を定期的に行うものとする。

## けいやくじ ぶんしょ こうふ (契約時の文書の交付)

だい11じょう りようもうしこみしやまた かぞく たい うんえいきてい がいよう きんむたいせい たじゅうようじこう  
第11条 利用申込者又はその家族に対して、運営規程の概要、勤務体制、その他重要事項を  
記したぶんしょ こうふ せつめい おこな  
記した文書を交付して説明を行うものとする。

2 けいやくていけつ さい ていきよう していちいませいかつえんじよ ないよう くじょうけつけまどぐちとう きさい ぶんしょ  
契約締結に際しては、提供する指定地域生活援助の内容、苦情受付窓口等を記載した文書  
を交付するものとする。

## こべつしえんけいかく さくせい (個別支援計画の作成)

だい12じょう じぎょうしや にゆうきよしや こべつしえんけいかく さくせい ぐるーぷほーむ  
第12条 事業者は、入居者の個別支援計画を作成し、これにもとづいたグループホーム  
サービスを提供するものとします。

2 じぎょうしや ぜんこう こべつしえんけいかく つぎ ぎょうむ さーびす かんりせきにんしや おこな  
事業者は前項の個別支援計画について、次の業務をサービス管理責任者に行わせるものと  
します。

- ① にゆうきよしや かいけつ かだい はあく にゆうきよしや いこう ふ うえ ぐるーぷ  
入居者について解決すべき課題を把握し、入居者の意向を踏まえた上で、グループ  
ほーむ さーびす もくひょうおよ きかん さーびす ないよう さーびす ていきよう うえ  
ホームサービスの目標及びその期間、サービスの内容、サービスを提供する上での  
りゆういてん などをも こ こべつしえんけいかく にゆうきよまえ さくせい  
留意点などを盛り込んだ個別支援計画を、入居前に作成すること。
- ② ぜんこう こべつしえんけいかく ないよう する しよめん にゆうきよしや こうふ せつめい ないよう  
前号の個別支援計画については、その内容を記した書面を入居者に交付、説明し内容  
かくにん きめいおういん う  
の確認ならびに記名押印を受けること。
- ③ こべつしえんけいかく もと さーびす ていきよう げんきょうとう すく 6かげつ 1かい  
個別支援計画に基づいたサービス提供の現況等については、少なくとも6ヶ月に1回、  
もしくはにゆうきよしや かぞく しんぞくなど ようせい ちょうさ ひょうか  
入居者・家族・親族等の要請があったときは調査・評価すること。
- ④ ぜんこう ちょうさ ひょうか けつか こべつしえんけいかくへんこう ひつよう みと ばあい  
前号の調査・評価の結果、個別支援計画変更の必要があると認められる場合は、  
にゆうきよしや きょうぎ けいかく へんこう ないよう する しよめん にゆうきよしや こうふ  
入居者と協議して計画を変更することにし、その内容を記した書面を入居者に交付・  
せつめい ないよう かくにん きめいおういん う  
説明し、内容の確認ならびに記名押印を受けること。

## さーびす ていきよう きろく (サービス提供の記録)

だい13じょう していきようどうせいかつえんじよ ていきよう さい ていきようび ないよう りようしやふたんがく たひつよう  
第13条 指定共同生活援助を提供した際は、その提供日、内容、利用者負担額その他必要  
な事項を記録し、その完結の日から5年間保存するものとする。

## きんむたいせい かくほとう (勤務体制の確保等)

だい14じょう かんりしや じゅうぎょうしや きんむ たいせい さだ じゅうぎょうしや ししつ こうじょう  
第14条 管理者は、従業者の勤務の体制を定めるとともに、従業者の資質の向上のため  
けんしゅう きかい つぎ もう  
の研修の機会を次のとおり設けるものとする。

- ① さいようじ けんしゅう さいようご1かげつない  
採用時研修 採用後1箇月以内  
(こじんじょうほう きろく ひやりハット、けんりようご ぎやくたいぼうしなど  
個人情報、記録、ひやりハット、権利擁護、虐待防止等)
- ② けいぞくけんしゅう ずいじ  
継続研修 随時
- ③ たひつよう ずいじ  
その他必要において随時

えいせいかんり  
(衛生管理)

第15条 利用者の使用する施設、食器その他の設備及び飲用に供する水について、衛生管理に努め、衛生上必要な措置を講ずるとともに、感染症の予防に関しても必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

じゅうようじこう けいじ  
(重要事項の揭示)

第16条 事業所の見やすい場所に、運営規程の概要、勤務体制、その他重要事項を揭示するものとする。

しゅひぎむ  
(守秘義務)

第17条 従業者は、正当な理由なく、その業務上知り得た利用者又はその家族の個人情報  
を第三者に漏らしてはならない。

2 従業者は退職後においても、業務上知り得た利用者又はその家族の個人情報を保護するため、これらの個人情報を漏らさない旨を従業者との雇用契約に明記する。

くじょうかいけつ  
(苦情解決)

第18条 指定共同生活援助の提供に対する利用者からの苦情に迅速かつ適切に対応するため、相談窓口の設置その他必要な措置を講ずるものとする。

じ こ はつせい じ たいおう  
(事故発生時の対応)

第19条 利用者に対するサービスの提供により事故が発生した場合には、速やかに当該利用者  
の家族、社会福祉法人 若竹大寿会法人本部、県、市区町等に対して連絡を行うとともに、  
必要な措置を講じる。

2 サービスの提供に伴って当事業所の責めに帰すべき事由により賠償すべき事故が発生した場合には、速やかに損害賠償を行う。

3 当事業所は、前項の損害賠償のために損害賠償責任保険に加入する。

じぎょう しゅ たいしょう しょうがい しゅるい  
(事業の主たる対象とする障害の種類)

第20条 指定共同生活援助事業について、主たる対象者は以下のとおりとする。

身体障害者 (肢体不自由、視覚障害、聴覚・言語障害、内部障害、細かなしの別)

知的障害者

ぎやくたい ぼうし そち かん じこう  
(虐待の防止のための措置に関する事項)

第21条 事業所は、利用者の人権の擁護、虐待の防止等のため、次の措置を講ずるものとする。

する。

- (1) 虐待防止に関する責任者の選定及び設置
- (2) 成年後見制度の利用支援
- (3) 従業者に対する虐待の防止を啓発・普及するための研修の実施
- (4) 虐待の防止のための対策を検討する委員会の定期的な開催及びその結果について従業者への周知徹底

(感染症対策に関する事項)

第22条 事業者は、事業所において感染症の発生及びまん延しないように、次の措置に努めるものとする。

- (1) 事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会の定期的な開催及びその結果について従業者への周知
- (2) 事業所における感染症の予防及びまん延防止のための指針の整備
- (3) 事業所において、従業者に対し感染症の予防及びまん延の防止のための研修並びに感染症の予防及びまん延の防止のための訓練の定期的な実施

(業務継続計画の策定に関する事項)

第23条 事業者は、感染症や非常災害の発生時においても、利用者に対する必要なサービスを継続的に提供できる体制を構築するための、業務継続計画を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置に努めるものとする。

2 事業者は、従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的な実施するものとする。

(その他)

第24条 この規程に定める事項の外、運営に関する重要事項は、社会福祉法人若竹大寿会と事業所の管理者との協議に基づいて定めるものとする。

附 則 この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成24年9月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成27年3月1日から施行する。

ふ 則 <sup>そく</sup> この規程は、<sup>きてい</sup> 令和4年4月1日<sup>れいわ4ねん4がつ1にち</sup>から<sup>しこう</sup>施行する。